

島根 更生保護

NO.204

(令和2年1月1日発行)
島根県保護司会連合会

〈島根更生保護データ〉

保護司総数 498人

保護観察事件 107件

生活環境の調整事件 198件

(2.1.1現在)



元旦の朝焼け(大田地区 新田義昭氏撮影)



国、地方、民間が
一体となって進める再犯防止
—第70回“社会を明るくする運動”を迎えて—

中国地方更生保護委員会
委員長 幸島 聡

令和2年新春を迎えて—第70回を迎える社明運動！

新年明けましておめでとうございます。オリンピック・パラリンピック東京大会が開催され、国際連合犯罪防止刑事司法会議(京都 kongress)の開催に併せて世界保護司会議が京都で開かれます。そして、“社会を明るくする運動”が第70回を迎えます。

国、地方、民間が一体となって進める再犯防止

現在、島根県におかれましては、地方再犯防止推進計画制定に向けて取り組まれておられると承知しております。心から感謝申し上げます。これも、島根県更生保護関係者の並々ならぬ努力の賜物であると強く感じております。

申すまでもなく、国、地方、民間が一体とならなければ、再犯防止は推進できません。再犯防止の推進

に当たっては、島根県で現在進められている福祉、保健、教育、就労等各種施策との有機的結びつきが不可欠であり、再犯防止の推進により、安全・安心の島根県づくりが確かなものとなるに違いありません。銀座フェアの精神に立ち返り、地域住民と手を携える

昨年10月に開催されました、更生保護制度施行70周年記念第25回中国地方更生保護大会におきまして、「銀座フェアの精神に立ち返り、地域住民としっかり手を携える」こと等を内容とする大会宣言が採択されました。銀座フェア(昭和24年7月)は、“社会を明るくする運動”の原点とも言われておりますが、東京・銀座の商店街有志の方々が非行防止を広く訴え開催されたものです。

更生保護に従事する私達は、地域の皆様に対し、更生保護の輪に加わっていただくよう粘り強く努力しなくてはなりません。そのためには、島根県を始め、地元市町村の理解と協力が不可欠です。特に、島根県、そして市町村における地方再犯防止計画の早期策定が強く望まれます。

更生保護を地域の皆様と進めて参りましょう！



島根県保護司会連合会
会長 井谷 耕造



令和元年は、もとより半年ほどの期間ですので瞬く間に経過しはや令和二年となりました。

会長に就任して初めての年でありましたが、更生保護施行七十周年ということで記念行事が重なり多忙な一年となりました。

不慣れな私を役員の皆様、事務局の方々に献身的に補足頂き大過なく初年度を終えることができました。

今年度も皆様方のお力にお頼りしながら、身の丈に応じた行動を心がけます。

更生保護法人更生保護施設「しらふじ」
理事長 大野 美雄



あけましておめでとうございます。平素は各方面からしらふじに格別のご支援を賜り、衷心より感謝申し上げます。お蔭さまで施設長以下8人の職員が日々まことに士気高く職務に精励し、更生を誓って起居する20名の利用者に対応しています。

今後ますます処遇困難な利用者が増えるものと見込まれますが、職員のスキルアップを図りながら、更生保護の最後の砦として社会の期待に応えて行く所存です。今年も何卒宜しくお願い申し上げます。

島根県更生保護女性連盟
会長 板倉 靖子



新年あけましておめでとうございます。旧年中は、更生保護関係者の皆様方には、島根県更生保護女性連盟に対しましてご支援ご協力を賜りましたこと、

厚く御礼申し上げます。

昨年は更生保護制度施行70周年の節目を迎えました。今後とも関係機関の皆様方との連携を密にして、会員一同、青少年の健全育成、犯罪のない明るい社会づくり等に協力して参りたいと存じます。

本年も変わらずご指導、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

松江保護観察所
所長 穂坂 英樹



謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに皆様の御健勝と御多幸を心より祈念申し上げます。

本年は、島根県と松江市における再犯防止推進計画が明示され、これらの計画が、県下の他の地方公共団体の策定に向けた重要な指針となります。

更生保護関係者の皆様がより活躍できる基盤をつくり、「誰一人取り残さない」安全で安心な地域社会の実現を目指し、県下各地での再犯防止推進計画の策定に向け、一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

更生保護法人島根保護観察協会
理事長 古瀬 誠



新年明けましておめでとうございます。本年も犯罪や非行のない安全・安心な地域社会の実現に向けて尽力して参る所存です。

平素、当協会に対し格別なご理解とご協力を賜っておりますことに心からお礼申し上げますとともに、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年が皆様方にとりまして、幸多い年となりますようお祈り申し上げます。

島根県就労支援事業者機構
会長 古瀬 誠

新年明けましておめでとうございます。今、更生保護が直面する大きな課題は、再犯防止の推進です。

保護観察対象者で無職者の再犯率は、有職者に比し約3倍高くなっております。

このことから、再犯を防止するには働き場の有ることが重要です。

当機構は、対象者の雇用につながるべく、各地区の協力雇用主会への助成をおこなっております。本年も、会員のご協力を得ながら、雇用につながる取り組みを進める所存であります。

今後とも一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

島根県BBS連盟
会長 春日 智徳



新年あけましておめでとうございます。

昨年中は、更生保護事業関係者の皆様には、BBS活動へのご理解ご協力を賜り心から御礼申し上げます。

引き続き、松江、出雲、浜田の3地区で行うBBS地区会での活動にご支援いただきますようお願い申し上げます。

更生保護制度施行70周年記念第24回島根県更生保護大会

令和元年11月21日(木)、サンレディー大田に約500名の更生保護事業関係者が参集し、中国地方更生保護委員会幸島委員長や島根県丸山知事を始めとする来賓の御臨席のもと、更生保護制度施行70周年記念第24回島根県更生保護大会が盛大に開催されました。大田市揖野市長の歓迎の挨拶に続いて、銀山あゆみ太鼓による大田市の伝統芸能である太鼓の演奏、石見銀山資料館仲野義文館長による講演「石見銀山の社会と秩序」が行われました。開会後は、島根県保護司会連合会井谷会長の式辞、松江保護観察所穂坂所長の挨拶に続いて、永年更生保護関係事業に多大な功績のあった363名の更生保護事業関係者に表彰状及び感謝状が授与されました。表彰終了後、大田地区保護司会中井秀三保護司から受表彰者を代表して謝辞が述べられ、犯罪や非行に陥ってしまった人たちの改善更生と犯罪の予防に

これまで以上に力を尽くし、努力したい旨の抱負が述べられました。その後、来賓からの祝辞、来賓紹介、本大会に参列した地方公共団体担当者の紹介、祝電披露と続き、更生保護法人「しらふじ」大野理事長発声による万歳三唱が行われて閉会となりました。



大田市長歓迎あいさつ



銀山あゆみ太鼓



仲野館長記念講演



井谷県保連会長式辞



受表彰者代表謝辞



法務大臣感謝状受表彰者



法務大臣表彰受表彰者

令和元年度 各種表彰受表彰者 (敬称略)

法務大臣表彰

- 〔保護司〕
- 吉野光徳(松江)
 - 安藤裕子(松江)
 - 三島通生(松江)
 - 宮崎和(松江)
 - 井上禧宏(雲南)
 - 長谷川庸雄(雲南)
 - 中井秀三(大田)
 - 岸博道(邑智)
 - 清水靖之(浜田)
 - 齋藤奈美子(浜田)
 - 後藤直樹(浜田)

- 伏谷恒子(益田)
- 下森敦之(益田)
- 名越邦博(隠岐)
- 古川静子(隠岐)

法務大臣感謝状

- 〔更生保護女性会員〕
- 永田典子(美保関)
 - 石川咲子(玉湯)
 - 江角佳子(斐川)
- 〔BBS会員〕
- 中島大棋(出雲)
- 〔島根保護観察協会〕
- 三木弘道(雲南)
- 〔しらふじ〕
- LCC株式会社

全国保護司連盟理事長表彰

〔保護司〕

- 鶴善政(松江)
- 安部吉輝(松江)
- 大野美雄(松江)
- 山本マツ子(松江)
- 山本恭治(松江)
- 小川藏之介(松江)
- 安部良江(安来)
- 土谷文江(雲南)
- 勝島徹正(出雲)
- 岡田三史(大田)
- 圓山達雄(邑智)
- 江木修二(浜田)
- 岡崎卓子(益田)

田中一隆(隠岐)

〔内助功勞者〕

- 下垣清子(邑智)
 - 鹽谷純恵(浜田)
- ### 全国更生保護法人連盟理事長表彰
- 足立英彦
- (島根保護観察協会)
- ### 日本更生保護女性連盟会長表彰
- 〔更生保護女性会員〕
- 糸原裕子(広瀬)
 - 原雪枝(飯石)
 - 和田智恵美(佐田)
 - 石本克子(浜田)



受章者

更生保護功勞による
叙勲・褒章（敬称略）

瑞宝双光章 村上秀道（雲南）
藍綬褒章 土井幸子（隠岐）



保護司になって

雲南地区 村上秀道

「だまされてだまされてする保護司かな」という句があり、保護司ってそんなものかなあと自分の頭の中では納得しているつもりです。何故ならば私が保護司になったのは、いや、保護司にさせられたのは、ある先生が一枚の紙を持って来られ「これワープロに打ってもらえないか」と言われ「易しいことです」と打ちました。次の年、紙二枚持って来られ「これお願いするわ」と。又、次の年紙数枚持って来て「今地区保護司会に事務局がいな

いのでお前事務局を引き受けてくれ」と言われたことが切っ掛けとなって保護司を受けました。最初は何もわからず先生の言われるまま研修会に出たり、先生言わく「私都合が悪いのでお前出てくれ」と言われ出たり、今考えますと早く一人前の保護司になって自分がやってきたことが出来る後継者を育てたかったのだなあとと思います。それから30数年過ぎ私を保護司にして下さった先生もお亡くなりになられ極楽から私のすることを見て笑っておられるのでは。一人前の保護司には程遠いですが、保護司をさせていただいている皆様の協力により保護司の大切さを実感している今日この頃です。



半分隠れて・・・

隠岐地区 土井幸子

この度、令和元年秋の藍綬褒章受章に際しまして、あらゆる機関の方々に御尽力戴いた事に心から感謝申し上げます。

平成7年12月1日より、地域の自治会長さんからの依頼に、私自身の社会勉強のつもりで、引き受けました。前半はひたすら研修のみといった所でしたが、次第に施設に出向いて面会から始まり、あらゆる経験をさせて戴きました。困難な時には、保護観察官から適確な指導を仰ぎ、研修会では、仲間達が真剣

に相談に乗って下さり、悩みつつも、好転する事が喜びに繋がり、結果大きく成長させて戴きました。

この榮譽が、大きく報道されると、沢山の祝福の電話やメールに、喜びに溢れてはいるのですが、ただずっと今まで、秘密裡にやって来た事なので、親しい方々でも、私が保護司をやっていた事自体知らなかった事で、さらに驚きの方が大きく、あなたは凄いワ偉いワとなっている現状です。もうしばらく頑張る所存ですが光りが当てられた今、それでもケースへの配慮から、半分身を隠し乍らの立場は、保護司の宿命だと心得ています。

栄え有る受章により、さらに邁進して参ります。



更生保護の心を広め、あたたかな人間愛を届けたい 令和元年度(第59回) 愛の図書贈呈式を開催

令和元年12月6日、松江保護観察所会議室において、島根県更生保護女性連盟主催による「愛の図書」贈呈式が行われました。これは、子どもたちや、心ならずも罪を犯した人たちに、「感動する心」や「人を思いやる心」を培ってほしいとの願いから、地域の方々から頂いた募金で矯正施設等に図書券を贈呈している運動で、今年で59回を迎えます。

贈呈式では、来賓に島根県知事代理、島根県保護司会連合会長を迎え、各施設代表者に、島根県更生保護女性連盟板倉靖子会長から図書券が贈呈されました。その後、島根あさひ社会復帰促進センター、出雲児童相談所、更生保護施設しらふじから現状報告をしていただきました。

なお、当日の贈呈先は次の10の施設です。



- 贈呈先
- 松江刑務所・島根あさひ社会復帰促進センター
- 松江少年鑑別所・わかたけ学園・中央児童相談所
- 出雲児童相談所・浜田児童相談所
- 益田児童相談所・更生保護法人しらふじ
- 島根県女性相談センター

ご縁を頂く

雲南地区保護司会

徳江良弘

保護司に任用されて三十年が過ぎようとしている。その間保護観察、環境調整を数回担当させて頂いた。対象者は勿論のこと、その家族等の関係者の方々とのご縁を頂き、中にはそれ以来お付き合いをさせていただいている方もある。

無縁時代と言われて随分と時間が経った現在の状況はどうだろうか。「血縁」親戚関係といえは今頃は慶弔時以外にはほとんど会うことが無くなったようである。また、遠方の親族や兄弟たちとも少しずつ疎遠になっていくようである。「地縁」地域社会の繋がりも、都会地では隣に暮らす人との付き合いは全く無いと聞くことが多い、挨拶することなど無いとも聞く、田舎に於いても人口減少、過疎化等により伝統的な行事も徐々に減少し、人々が集うことが少なくなって、近隣との繋がりも徐々に薄れてきたようである。「社縁」パソコン・スマートフォンの目覚ましい普及により社会が大きく変わってしまった。私もそうであったが、職場の同じ部署に居ても挨拶はパソコンの

視点

焦点

メールで行ったり、用事もメールで済ませたりであった。友達どうしても用事や連絡調整はメールで済ませてしまう、また関係先との連絡や、物品の発注等もメールでのやり取りであり、話すことなど全く無い、相手の心情など視える余地も無くなったようである。

私が保護観察で頂いたご縁も多々ある。最初の保護観察対象者とは親しい関係が今も続いているし、別の保護観察対象少年の祖父には仕事絡みで随分お世話になったし、また四号保護観察期間中に対象者が結婚し、奥さんを紹介して頂いた。そして期間満了してからも困ったことが有る時は相談を持ち掛けられることが多々有るようになった。一方、環境調整を通しては、対象者の年老いた母親とのご縁を頂き、毎週一回の電話での会話が長きに涉った。

暮らしの中では人との関りが大切である。齢を重ねれば多くの人と様々な関りが出来るし、色んなご縁を頂くことがある。どこかで耳にした言葉がある。「人生は、深い縁の不思議な出会いだ」これから先まだまだご縁を頂くことが有ると思う。そのご縁は大事に育てて行きたいと思う次第である。

地区だより

スポーツを通して

安来地区 小村修司

「どじょっこスポーツ大会」は、平成13年から始まり、今年で19回目になります。小学生を対象に、市内はもとより、遠くは岡山からも参加してもらっています。交流と親睦を深め、青少年の健全育成を図ることを目的として実施されています。

野球、バレーボール、剣道の各スポーツ少年団が主催し、当保護司会は、その主旨に賛同して第1回大会から共催しています。

当会では、各大会の開閉会式で、保護司会会長があいさつの中で更生保護について述べ、選手や保護者、大会関係者への啓発を行っています。当初は、更生保護や保護司について知っている人はほとんどおられませんでした。回を重ねるごとにそのことへの認知度はあがり、保護司に対して「大変なことをやってるね。」とか、「がんばってるね。」などのねぎらいの言葉をかけてもらうことも増えました。地道に活動してきた先輩方のおかげを受けているなあとつくづ

く感じます。

また、優勝、準優勝チームへメダルを授与し、健闘を讃えています。試合中のひたむきにプレーする表情と打って変わって、メダルをかけてもらった時の子どもたちのうれしそうな表情に心打たれます。

近年、少子化などの影響で参加者が減少してきていますが、令和の時代もこの大会が継続していくように応援していきたいと思っています。



第69回 “社会を明るくする運動”



本作品は全国の小学生の部 最優秀賞である法務大臣賞に選ばれ、令和元年12月25日に法務省において法務大臣から表彰を受けました



誰もが必要とされる 社会を目指して

小学生の部

島根県・浜田市立三階小学校 6年
山本 彩 永

最近、多くの人を傷つけた犯人が自ら命を絶つという事件が起きました。テレビやインターネットなどでは、犯人について「死にたいなら人を巻き込まずに死ぬべきだ。」「死ぬのなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」などといった意見が多く見られました。私は、この事件の報道を見て、とても悲しくなりました。同時に怒りの気持ちもわき上がりました。そして、大切な家族や友達が殺されてしまったらと考えたら、犯人は一人で死ぬべきだと思っていました。

しかし、私とはちがう考えをもっている人がいました。それは、NPO法人代表の方で、その人は、「『死にたいなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。』と言うのはやめよう。このような言葉を受けとった、犯人と同じ思いをもつ人は、社会は何もしてくれないという思いを募らせるのかもしれない。社会はあなたを大事にしているし、何かできるのかもしれない。社会はあなたの言葉を軽視していないし、死んでほしいと思っている人間など一人もいない、という強いメッセージを発信していくべきだと思う。」という事を言われていました。

犯罪を起こしてしまう人は、「自分は社会に必要な人間だ。」「自分の味方などだれもない。」と思っているのではないだろうかと思えます。そのような思いが心の中にどんどんたまっていて、悲しくて、苦しくて、もうどうしようもなくなっていて、その気持ちが社会に対する「怒り」に変わっていった結果、犯罪を起こす気持ちになってしまうのだと思います。

そして、その犯罪を起こしてしまった人にも家族がいます。ただでさえ自分の身内が犯罪を起こしてしまったことでショックを感じていると思うし、「犯罪者の家族」として世間から見られるだけで、その後の生活は苦勞の絶えないものになっていくのだろうと考えられます。そんな中で、「一人で死ねばいい。」などといった報道を目にするのは、想像を絶するくらい辛いことなのだと思います。

自分は社会に必要な、と思っている人がいるのならば、そ

ういう人たちが少しでも社会の中で自分が誰かのために役に立っているという喜びを実感できる仕組みができればいいと思います。今、小学生である私には、大きなことはできません。私にできることは何だろう……。いろいろ考えてみましたが、一つは自分から進んであいさつをすることだと思いました。私たちの地域では、登校時に、「見守り隊」と呼ばれる人たちが、主に交通量の多い横断歩道で交通指導をしてくださっています。自分からあいさつをすることで、とても喜んでもらいました。あいさつを通して、「人とつながる喜び」を感じました。あいさつのあふれる地域を実現することで、だれもが地域の一員としての所属感をもつことができるのだと思います。

また、私は学校で、六年生として昼休みに下学年と一緒に遊ぶ活動をしてきました。お昼の放送で呼びかけると、たくさんの人が集まってくれて、一緒に楽しくおにごっこやケイドロをして楽しみました。

「またやりたい!楽しかったよ!ありがとう。」と言ってくれた一年生は、とても嬉しそうでした。こうした自分の活動によって、「学校に来てよかった。」という誰かの喜びをつくることができたことは、とても意味のあることだと思ったので、これからも続けていきたいと思えます。

他にも、私はクラブ活動や委員会活動でリーダーをしています。このように、私は学校の中に自分の役割があり、学校の役に立っているという実感をもっています。人の役に立つという事は、私の大きな喜びとなっています。

「死にたいなら人を巻き込まずに自分だけ死ぬべき。」「死ぬのなら人に迷わくをかけずに死ねばいい。」といった意見は、被害者のことを考えると、気持ちはすごく分かるし、そのような気持ちになるのは当たり前のような気がします。しかし、本当の意味で社会全体から犯罪を減らしていくために、「この社会の中で必要とされていない人なんて誰もいない」ということをみんなで考えていくことが大切だと思います。この言葉を胸に、私はこれからも自分から人を大切にできる人間として生きていきたいです。

第69回“社会を明るくする運動”作文コンテスト入賞者

【小学生の部】

最優秀賞

第69回 “社会を明るくする運動”
島根県推進委員会委員長賞 (1位)
『誰もが必要とされる社会を目指して』
浜田市立三階小学校 6年 山本 彩永

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞 (2位)
『世界遺産から学ぶ社会を明るくする方法』
大田市立川合小学校 6年 松浦 尚太

更生保護法人島根保護観察協会理事賞 (3位)

『過ちをおかした人の未来は』
出雲市立多伎小学校 6年 水 雛代
山陰中央新報社賞
『地いきの人とのつながり』
松江市立城北小学校 6年 玉木 綾乃
『同じ犯罪を犯さないために』
奥出雲町立阿井小学校 6年 勝部 睦実

島根県更生保護女性連盟会長賞

『だれかのために』
隠岐の島町立都万小学校 5年 田下 葵衣
『明るい社会とは』
隠岐の島町立北小学校 6年 稲葉 仁子
島根県BBS連盟会長賞
『あなたのご飯は何ですか?』
安来市立社日小学校 6年 仙田 瑚々
『ぎゃくたいのない社会をきずく』
吉賀町立六日市小学校 5年 小椋 翔太

作文コンテスト島根県最優秀作品



私にとっての挨拶



島根県・出雲市立斐川西中学校 3年
津田 愛美

挨拶をするのはいいことだ。挨拶をしてもらおうと嬉しいし、挨拶をした自分もいい気持ちになる。挨拶というのは、そういうものだと思っていました。

ある日、下校中の私は一人のおじさんを見かけました。私はごく自然に

「こんにちは。」

と挨拶をしました。それは私にとって当たり前のことでした。当然、おじさんも挨拶を返してくれるだろうと思っていました。でも、おじさんは一向に挨拶を返してくれません。知らんぷりのおじさんを腹立たしく感じ、つい

「何で挨拶を返してくれんの。」

と言ってしまいました。幸いおじさんには聞こえなかったようで、何も言い返してきませんでした。

この日を境に、私はもうあのおじさんには挨拶をしないと決めました。

「せっかくこっちが挨拶をしてあげているのに！挨拶を返さないなんて、最低！」

「挨拶をしてあげているのに。」いつの間にか、私の中の「挨拶」は自分からすると気持ちの良いものではなく、「してあげるもの」になっていたのです。

そのおじさんの姿は、その後も何回も見かけましたが、私から挨拶をすることはありませんでした。それでも、私の中のもやもやした気持ちは無くなりません。

「いつも下校中に会うおじさんがいるんだけどね、この前、私がせっかく挨拶をしたのに、無視したんだよ！大人のくせに、挨拶も返さないなんて最低だよね！」

私は、祖母にそんな風に言いました。誰かに「そうだよね。あなたの言う通り。そのおじさんは最低な人だね。」と共感してほしかったのです。しかし祖母は、こう教えてくれました。

「ああ、その人。私もその人を知っているよ。その人は耳が聞こえないんだよ。」

私は、一瞬頭の中が真っ白になりました。すぐには、祖母が言っていることが理解出来ませんでした。

おじさんは「難聴」だったのです。「難聴」の人は、耳が聞こえないのでうまく話すことができず、手話が筆記しか会話の手段がないことを、その時初めて知りました。私は、おじさんが挨拶を返してくれないことを悔しく思い、その悔しさにずっとこだわっていました。おじさんが抱えている事情が分かり、「してあげた挨拶」にこだわっていた自分がとても愚かに思えました。

次の日、おじさんは畑仕事をしていました。「どうしよう。おじさんは耳が聞こえないし、挨拶なんかしても意味がないかも……。そうだ、会釈してみよう。会釈なら言葉いらない。」そう思い、おじさんの前を通りすぎるとき、思い切って会釈をしました。するとおじさんも気がついてくれ、会釈を返してくれました。

「通じた！」

私は嬉しくて思わず笑顔になっていました。すると、おじさんも笑い返してくれたのです。

言葉なんかなくても、伝えたい気持ちがあれば、分かり合えるんだと感じた瞬間でした。その時した私の会釈は「してあげる挨拶」ではありませんでした。「伝えたい」と思っていた挨拶でした。

挨拶をするのは当たり前。挨拶を返すのも当たり前。でも、私の言う「当たり前」は、すべての人が同じように実行できる「当たり前」ではない。そのことに気づいた出来事でした。

おじさんだけではなく、世の中には他人が一見ただけでは分からない困難を抱えている方がたくさんいらっしゃいます。例えば、ペースメーカーを入れている人。妊娠初期の女性。その他、色々な人に、私の「当たり前」は通じないかもしれないかもしれないのです。

この体験から私は、自分の中の「当たり前」を見直そうと思いました。全ての人に共通する「当たり前」はないのかもしれませんが。自分の判断だけで決めつけてしまうのではなく相手のことをしっかりと理解したうえで、接していきたいです。

応募総数1308点（小学校853点
中学校455点）

【中学生の部】

最優秀賞

第69回“社会を明るくする運動”

島根県推進委員会委員長賞（1位）

『私にとっての挨拶』

出雲市立斐川西中学校3年 津田 愛美

優秀賞

島根県保護司会連合会長賞（2位）

『刑務所がからっぽになる日が来るには』

美郷町立大和中学校2年 池永 唯香

更生保護法人島根保護観察協会理事長賞（3位）

『事件をおこさないためには』

江津市立江東中学校3年 細木 彩花

山陰中央新報社賞

『つながりのはじまり』

江津市立江津中学校3年 松浦 美菜

『ボランティアを通して学んだこと』

雲南市立加茂中学校3年 橋本 茉奈

島根県更生保護女性連盟会長賞

『優しい社会』

美郷町立大和中学校3年 浅原 美彩

『その命、どう向き合うか』

益田市立益田中学校2年 大賀 綾音

島根県BBS連盟会長賞

『「本当の優しさ」とは』

松江市立第三中学校1年 竹下 真未

『先生のように』

大田市立北三瓶中学校2年 前田 大成

保護司・更生保護女性会・ BBS会員連携強化研修

松江地区矯正展及び旭ふる里まつり（浜田市）において、三者による広報啓発活動を実践しました。プラバンを使用した更生保護のマスコットキャラクター「ホゴちゃん」のストラップづくりは大盛況でした。



ご支援ありがとうございました

（島根保護観察協会） 敬称略
杉田 雅弘 木村 昌晴 和田 良一
島根県更生保護女性連盟
松江地区更生保護女性会

敬
弔

下記の方がご逝去されました。ご功績を
偲び謹んで哀悼の意を表します。

- 元保護司 高橋 隆興（浜田）
（令和元年10月19日逝去）
- 元保護司 伊東 克行（松江）
（令和元年11月26日逝去）
- 元保護司 伊豫 宣成（松江）
（令和元年12月28日逝去）

石見・東部地区保護司 代表者会議の開催について

令和元年10月18日に、益田市吉賀町において石見地区保護司代表者会議が、また、同月25日には、出雲市において東部地区保護司代表者会議が開催され、各地区保護司会が抱える課題について活発な意見交換がなされた。



保護司の異動

〔退任保護司〕 15名
（令和元年11月30日付）

- | | |
|-------------|-------------|
| 小川 藏之介（松江） | 岸 本 茂 子（邑智） |
| 宮崎 和（松江） | 河野 義 則（邑智） |
| 山本 マツ子（松江） | 富永 富久恵（邑智） |
| 森 廣 公 一（松江） | 河野 宜 子（浜田） |
| 山本 勝 昭（雲南） | 沖野 邦 男（浜田） |
| 長谷川 庸 雄（雲南） | 鹽谷 法 顯（浜田） |
| 落合 慧（雲南） | 後 藤 直 樹（浜田） |
| 和田 良 一（大田） | |

〔新任保護司〕 16名
（令和元年12月1日付）

- | | |
|------------|-------------|
| 石川 章 弘（松江） | 吾 郷 宏 光（出雲） |
| 太田 敦 久（松江） | 津 戸 弘 光（出雲） |
| 景山 直 観（松江） | 山 岡 尚（出雲） |
| 宮崎 美 治（松江） | 藤 間 修（邑智） |
| 卯木 昌 史（雲南） | 服 部 京 子（邑智） |
| 岸野 俊 一（雲南） | 日 高 誠（邑智） |
| 杉山 千恵美（雲南） | 沖 田 將 文（浜田） |
| 塚本 良 二（雲南） | 若 菜 洋 子（浜田） |

（表紙写真説明）

元旦の朝焼け

2017年1月1日午前8時5分、大田市三瓶町の池の原から三瓶山を望む